

人生辞典

新山武彦

見るについて	42	ページ
同じについて	43	
違和感について	44	
もし、について	45	
第三部 「錬金術によせて」		
次は、について	48	
風について	49	
可能性について	50	
自己について	51	
明日について	52	
フラスコについて	53	
揮発性について	54	
一つについて	55	
矛盾について	56	
優れているについて	57	
バランスについて	58	
物質的なものについて	59	
社会とは何かについて	60	
忍耐について	61	
溶かすについて	62	
構成要素について	63	
補足	64	
あとがき	73	

前書き

この「人生辞典」は、私の人生の体験を通して得られたインスピレーションや気づき、学びを書き記したものとなっている。

構成としては、三部構成となっている。

第一部は、何年も前になるが、ある体験により真っ白になった時、そこで感じたインスピレーションを記したものとなっている。

第一部に記したそれぞれの言葉については、一語一句変えるつもりのないものであり、私自身にとっては、絶対に疑われないものとなっている。

第二部は、その後の学び及び、日常における体験を通しての気づき、そして、私なりの考察を記したものとなっている。

私自身は哲学が好きなのだが、常にそれは、実践的であり続けなければならないと思っている。まだ、未熟な部分は見受けられると思うが、共感して頂ける部分もあるのではないかと思う。

一日通して頂ければ幸いである。

第三部は錬金術的観点から、色々書かせて頂いている。

ここに来て、なぜ錬金術なのかということになるが、それは好きだからである。ただ、なぜ好きなかと言われると、なぜかは分かりませんと言うだろう。

だが、はつきりとした理由は述べることはできないが、好きということには変わりはなく、ずっと学び続けている次第である。

さて、それでは錬金術という皆様が何を思い浮かべるかは想像に難くはないのだが、本当の錬金術、言うなれば、その本当の意味を知っている方はいらっしやらないのではないかと思われる。

かく言う私自身もはつきりと言えないのであるが、ここ最近になって、何となくそれが分かりかけた次第である。

気になる方はどうぞ自身で調べて頂きと思う。それでこそ意味があるものとなるのが錬金術なのだから。少しでもその橋掛かりとなれば、私としては満足である。

以上、前書きを述べてまいりましたが、ぜひ、中身の方を読んで頂いて、何か感じて頂ければと思う。

なお、巻末には補足として、本文に対するフォローを書かせて頂いている。

それは、私自身の気持ちだったり、また本の構成上、本文の方には記さなかったものなどを載せている。お粗末なものではあるが、理解の助けになればと思う。

以上

第一部
メッセーヂ

一、生について

全てを含むのは「死」ではなく「生」である。

在るのは事実だけ。よって地獄が生じるのはこの世である。